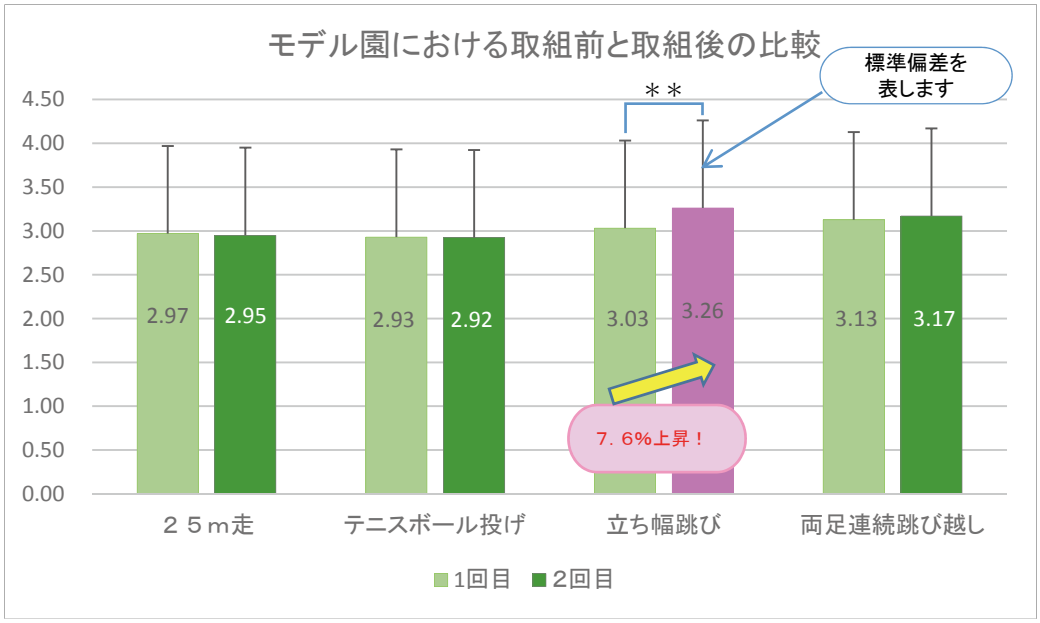
平成25年度子どもを夢中にさせる運動遊び推進事業

平成２２～２４年度の調査で明らかになった幼児の運動能力中、特に低かった「跳ぶ力」の向上を目指して、「跳の動き」に重点を置いた運動遊びプログラムを実践し効果検証を行った。

※本事業は、県立教育研究所がモデル園10園を指定（裏面参照）して実施した。

モデル園全体の取組結果（５月～11月）

モデル園10園
253名の5歳児が参加

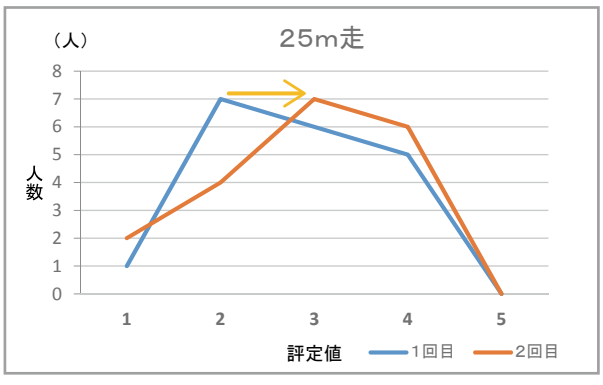


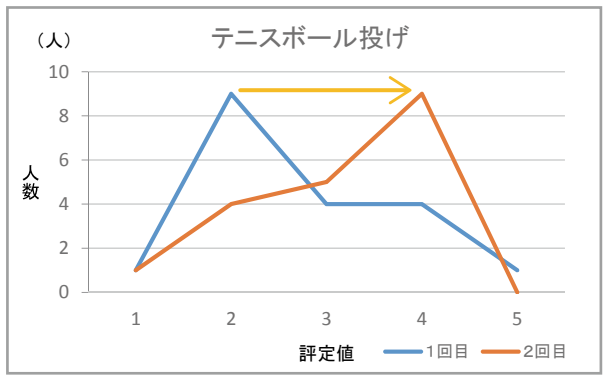
モデル園全体の１回目と２回目の運動能力調査結果を比較すると、立ち幅跳びの評定値が有意に高くなりました。

※1回目･･･5～6月　　2回目･･･10～11月に実施　　＊＊p<0.01

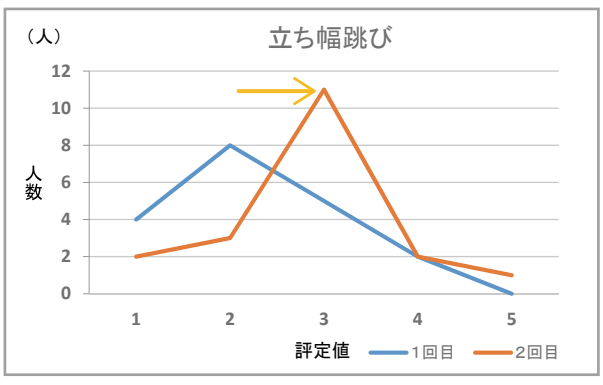
※ 評定値：2008年幼児の運動能力全国調査の結果をもとに作成された運動能力判断基準表の値。5段階（1～5）で表され、「3」は標準的な発達を示す。

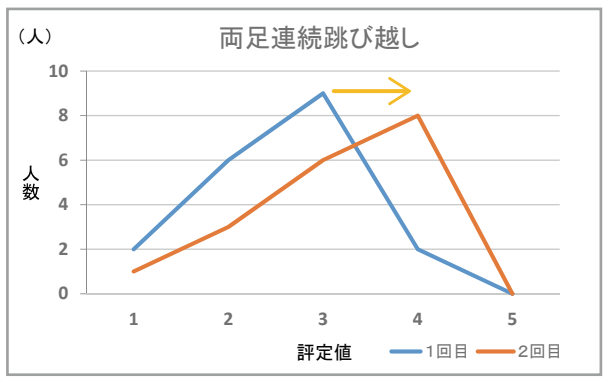
最も効果のあったモデル園の取組事例





運動能力調査２回目（11月）の方が１回目（５月）より評定値の高い幼児が多い。
（分布が右へ移動している）





幼児の運動能力等実態調査を活用し、継続して運動遊びに取り組むことで、運動能力が高まりました。